

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791000021		
法人名	社会福祉法人憲寿会		
事業所名	グループホームかねぐすく		
所在地	沖縄県糸満市字兼城871番地1		
自己評価作成日	平成29年10月 9日	評価結果市町村受理日	平成 30年 1月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JizyosyoCd=4791000021-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	平成29年 10月 27日(金)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、広い駐車場を所有し、敷地面積も広く、遠くに与座岳、集落を見渡す最高の場所に位置する。階下にはデイサービスを併設して、誕生会や敬老会等、交流を図りながら合同で行っています。又、外出支援という観点から母体施設との合同行事(納涼祭り・運動会)へも参加しています。季節に即した活動、手工芸、作品づくりにも盛んに取り組んでいます。毎年恒例の兼城ハイツ祭り、糸満市パネル展、社協チャリティー講演、地域行事にも積極的に参加し交流を図っています。又、開設者はじめ職員研修、各種認知症ケアの勉強会などサービスの質向上に努めています。隣接している畑の住民より野菜の差し入れがあったり、その材料でおやつを作り、お裾分けしたりと地域とのつながりも大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関に入ると「おかえりなさい」と木工細工による表示があり、理念に基づく家庭的な雰囲気、安らぎのある暮らしの実践に向け、落ち着いた雰囲気づくりの工夫がされている。住宅地より離れた郊外に関わらず自治会や地域との連携が密に行われている。1階には法人内の通所事業所が併設され、利用者の体操への参加や、誕生会などの行事も合同で実施しており、地域の友人や知人との交流が継続的に行われている。又隣接する農家の住民との交流もあり、差し入れされた野菜を食材として活用し、季節感のある食事を楽しんでいる。入所時や家族、友人などからの情報により、本人の「していた活動」や「できる活動」を把握し、趣味である三味線演奏が始まると、手拍子や唄で参加する等、それぞれが役割を持って参加しており、一人ひとりの個性を大事にする支援を実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境で、個性を大事に支援する思いを目標とした理念は室内に掲示をし、毎月の会議資料にも掲載して、都度、確認し合っている。	理念は開設当初に管理者と職員と共に作成、毎月1回の会議資料にも添付され、地域密着型サービスの意義を職員全体でその都度確認、共有するとともに地域生活の継続支援と、事業所と地域の関係性を重視した理念を大切に、一人ひとりの具体的なケアについて意見の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	兼城ハイツ自治会に入っていて、今回は夏祭りには参加出来ませんでした。まつり準備の差し入れをしたり交流は図っている。行政主催するパネル展出品、又、隣接する畑の住民とも交流があります。更に、福祉体験学習生徒さんの受け入れや敬老会、誕生会行事等では、園児、サークルボランティアの慰問などもある。	事業所で目治会に加入、納涼祭りへの参加や、祭りの準備、差し入れを行ったりと交流を図っている。隣接する畑の住民との交流もあり、野菜などの差し入れもある。福祉体験学習の中学生も糸満中学と西崎中学から受け入れ、定期的に保育園の園児、フラダンス、糸満市のサークルのボランティアが訪れるなど、近隣に住む人達と触れ合う機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	沖縄県認知症グループホーム協会へ介入していて、世界アルツハイマー月間啓発活動による市民へのチラシ配布。病院や家族からの入居の相談、見学などを随時行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回、年6回開催している。利用者の生活状況や行事、職員研修の報告が主であり、もっと深い意義のある会議にできるようにしたいと思います。	運営推進会議は行政や利用者、家族も参加で年6回解されている。事業所の現状や、行事、研修などの報告もあり、委員からの意見や質疑応答もありサービスの質の向上に反映されている。利用者の日頃の生活状況を写真で報告する等の工夫もされている。事故報告やヒヤリハット推進活動の報告がない。議事録は作成されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内状の配付、老人福祉パネル展示への案内、保険更新や研修会の連絡などがあります。又、「災害時における社会福祉施設等の被害状況の把握について」に基づき、緊急連絡先の情報を提供しています。	運営推進会議に行政も毎回参加しており、日頃から事業所の現状が報告されている。2か月に1回の運営推進会議の案内や、更新の手続きなどで窓口を訪問、利用者の暮らしぶりやニーズの具体を伝え、連携を深めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室や玄関には施錠はせず、センサーを設置。帰宅願望のある方については、常に所在地の確認と声かけ見守りで対応しています。身体拘束研修会には職員参加をしている。	グループホーム連絡会にて「権利擁護、身体拘束、虐待防止」の研修に参加、復命研修で勉強会を実施、身体拘束をしないケアについて職員の共有認識を図っている。又朝夕の申し送りでも確認と共有を徹底している。夜間のベッドへの柵を希望されるご家族へは、自由な暮らしの大切さと事業所取り組みを丁寧に説明し、理解を得られるよう努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GH連絡会においても、認知症研修、虐待防止についての勉強会が実施されています。参加することで職員の意識統一が図れるように努めていますが、職員本人は忙しさのあまり、気付かないうちについ、言葉使いが悪くなったりと言葉での虐待を気を付けないと思っています。	グループホーム連絡会にて認知症研修、虐待防止についての研修があり、参加していない職員に対しても勉強会や、朝夕の申し送りなどで高齢者虐待防止法に関する理解や順守に向けた取り組みを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の研修受講により知識の向上に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者やご家族様に対し、不安感を取り除きながら、契約書及び重要事項説明書を確認しながら説明をし納得されています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置していますが、現在利用はありません。面会の方が結構多くて、その中で利用者を交え、談話しながら利用者や家族が話しやすいような雰囲気を作り、近況報告や意見や要望を伺うようにしています。	運営推進会議に利用者、家族も参加しており、家族からの質問に対しても応答がされている。又面会時には積極的に会話をし、何でも言えるような雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望は、申し送りやミーティングで話し合い反映させている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の申し送りや会議等で、業務改善、必要物品購入についての意見、要望があれば即検討し、代表者へ伺いを立て、出来るだけ要望に合った処遇を行うようにしている。	管理者は日頃から職員の要望や意見を聞くようにしている。毎月1回の会議でも職員の声を聴き、新人職員は個別面談を実施している。管理者と法人との会議で職員の意見を報告し速やかに反映できるよう対応している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務態度を把握し、資格取得手当や昇給の配慮がある。又、夜勤手当アップの提案があり、代表者へ伺いを立てていて、前向きに検討中である。	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は資格取得手当の支給や昇給があり、職員が向上心を持って働けるような職場の環境づくりに努めている。職員の疲労やストレスの要因についてもきを配り、仕事の内容を変更したり、法人の産業医との面談を実施する等、職員の心身の健康を保つための対応をしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修として、職員会議での医療講話や認知症に関する勉強会、GH連絡会の研修派遣、各種資格取得に向けての資料提供などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム協会に加入し、定期的に連絡会へ参加、他事業者との情報交換等の交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化等で、不安に陥らないように、最初の段階で寄り添っての話し相手、信頼関係を作り、不安解消、又は軽減できるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階より信頼関係を築くため、家族との連絡を密にとり、サービス開始後も気兼ねなく意見や要望が言える雰囲気作りをおこなっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やご家族様が気付かない事がある場合など、ケアの必要性について助言を行いながら、より良い支援の方法を一緒に考えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に近所にスーパーに出かけたり、食後の後片付け、掃き掃除、洗濯物の整理、おやつ作りを楽しみながら行い、信頼関係を気付いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者、家族との信頼関係を保ちながら、共に支え合える支援ができるように努めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設しているデイサービスに地域の知人友人などが利用する場合があります。都度、交流を支援している。又、自宅への一時帰宅や外出などでも、子や孫、知人友人との交流もある。	地域の納涼祭りへの参加やお盆などの一時帰宅、外出などで子や孫、地域で暮らす馴染みの知人や友人との継続的な交流ができるよう支援している。又、入所時や面会時に得た情報を基に一人ひとりの職歴や興味の深さを把握し、庭の手入れやカラオケなど、説教的に活動できるよう働きかけている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会、おやつ会、余暇活動時においても、個性を大事にしながら、利用者同士の交流ができるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で医療ニーズが高くなり、施設復帰が困難になった場合は、医療機関や母体施設(特養)への紹介などを行い、利用者や家族が不安にならないような支援を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出が好きな利用者には、ドライブ、買い物などに出かけたりしています。又、運動が好きな利用者には、デイサービスへ交流しながらの体操や器具を使用してのリハビリを行っています。疎通が困難な利用者に対しては、声掛け話し相手をこまめにしながらコミュニケーションを図っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居段階での生活歴把握以外にも、新たな情報入手する場合もあり、家族や知人が面会で尋ねた来た時には、談話の中から生活歴、趣味嗜好など、新たな発見がないか聞き出すように努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の各種記録表を作成し、体調の変化や心身の状態、生活パターンが把握できるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険更新時や身体状況変化時、担当者会議開催し、その中でサービス計画書を作成していますが、その後のモニタリングの実施記録がうまく出来ていない。	サービス計画書は作成されているが、短期目標と長期目標の設定期間が同一機関である。介護保険の更新時や身体状況の変化などにより、見直しが行われているが、定期的なモニタリングの実施記録と、計画書に基づくサービス提供の実践状況の記録が確認できない。	介護計画で対応できないことや家族の要望や変化が生じた場合は、モニタリングに基づいた計画の見直しが必要である。見直しの根拠となるモニタリングの記録の整備と、実践状況の記録の整備が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、ケース日誌、各種記録表や日々の申し送り等で情報を共有して、見直しをし、実践できるよう努力しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者へ声掛け、希望があれば、併設するデイサービスでの体操への参加や交流などを柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用には至っていない為、資源の把握に努め、利用者の生活活性化に繋がるようにしていきたいと思います。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続し、基本的には家族対応で受診している。家族が対応できない場合は職員が送迎や、家族の要望で受診に職員と一緒に付き添ったりしている。受診結果は家族より口頭で報告を受け職員で共有している。	利用者はかかりつけ医を家族対応で継続し受診している。家族からの要望で職員が送迎したり、一緒に受診付き添いするなど柔軟に対応している。医療機関には情報提供書を提出し、受診後は家族より口頭で報告を受け、申し送り時に職員へも報告し情報を共有している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置があり、定期的に健康チェックを行っている。利用者の急変時には、医療機関との連絡調整、職員への助言を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関からの問い合わせに、情報を提供し、お見舞いの際には、本人、家族へ不安にならないような配慮、医療スタッフへ病状の確認、更に細かい情報提供も行っていきます。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になった場合は、ご家族様と話し合いを持ち、意向等聞きながら母体施設(特養)、介護老人保健施設への紹介などを行うようにしています。	現在、職員配置において体制が整っていないため看取りは行っていないが、勉強会に参加するなど準備をしている。入居前に看取りの指針を説明し同意書をとっているが、状況変化に応じて再度説明、話し合いを行っている。いまのところ重度化の場合は母体施設などの紹介を行っている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED設置、急変時のマニュアルは作成しているが、緊急対応訓練が十分に出来ていないので、実施できるように努力していきます		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアル、スプリンクラー、消火器等の防災設備完備。年2回消防隊立ち合いによる消防訓練を実施している。今年度は、自治会長及び地域の住民2名の呼びかけを行い参加していき、協力体制の確認を行っています。	年2回の消防訓練時に通報訓練、避難訓練、消火訓練を実施し、昨年度の目標達成計画に掲げた地域住民や自治会長も参加している。訓練後の報告書も作成されている。法人で備蓄は準備されているが、事業所では準備されていない。	法人では備蓄が用意されているが、場所が離れている為、事業所による災害時を想定した備蓄の準備が望まれる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者個々の尊厳を守るよう常に意識して対応するようにしているつもりですが、忙しさのあまり言葉使いを誤ったりする事もあり、都度反省である。又、プライバシー保護の観点からは、利用者の居室を開けっ放しになっている事があり、都度指導しているところである。	プライバシーに関して、お風呂やトイレは同性介助にするなど気を付けている。居室のドアも基本的には開けっ放しにしないように注意している。言葉遣いにも注意し利用者に合わせて方言で話したり、県外からの利用者にも分かるような話し方を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会等で、ゲームでの景品を用意し、選べるような取り組みも行っている。又、買い物に出かけた際は、物によっては利用者を選んでもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビ(沖縄芝居のDVD・ニュース等)を見る習慣のあり利用者、あるいは、新聞、雑誌を読む事が好きな方には好きな場所で、希望を聞きながら提供しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や爪切りをお願いをする利用者もあり提供している。又、「たまにはお化粧はいかがですか」と進めると、喜んで受け入れる。ある利用者は、着替えを頻繁にし身だしなみを整えています。汚れ物を着たりすることもあるので、本人に気付かれないようにそっと洗濯に出している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食やおやつの下ごしらえを出来る範囲で手伝ってもらっています。その他、食事のメニュー書き、食後の後片付け、食器拭き、テーブル拭き、掃き掃除等を利用者に分担してもらっていて、やりがいを持っている。食事に関しては、毎月給食委員会があり、都度、提案などを行い、改善を図っています。	食事は法人の配食が昼夜、朝ご飯は事業所で調理している。4人の方は自分で食事をされて、職員も食事介助しながら同じメニューを食している。配膳や食器拭き、食前、食後のテーブル拭き、掃き掃除など、利用者が率先して行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取記録表を作成している。摂取量の少ない利用者に対しては、食事形態の工夫、栄養補助食品等でのカロリーの確保、水分を嫌がる方に関しては、甘い飲み物にするなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、習慣的に自力で出来る方や、声掛けセッティングで出来る一部介助、認知症状重度や嚥下障害で全介助を必要とする方、個々に応じたケアを行っています。夕食後の口腔ケア後の義歯はポリドントにつけて置く。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表で管理し、パターンを把握している。日中は、便座位困難者以外はトイレ誘導の実施。夜間は尿パット交換、ポータブルトイレ設置で対応。	日中はトイレで排泄できるよう見守り介助を行ない、夜間はポータブルやパットを必要に応じて使用している。なかなかトイレの訴えがない方も排泄記録を活用しパターンを把握、声掛け誘導をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	母体管理栄養士による食事献立、日々の水分量の確保、活動や運動、最終的には便秘薬処方に対応しています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日等はある程度決めてはいますが、病院受診や外出のタイミングで入浴したり、散髪後の入浴、失禁時の入浴等、臨機応変に対応しています。入浴は同性介護が望ましいが、職員体制等の困難な事があり、本人、家族への了解により対応しています。	週2回の午前中に入浴となっているが希望に沿っていつでも入浴できるようにしている。同性介助を基本としているが、シフト等で困難な場合は同意を得て行っている。利用者が着替えや整容をするのに十分な広さの脱衣所で夏は扇風機、冬は設置されている暖房器具で温度管理している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全個室で、誰にも気兼ねなく過ごせるようにしている。居室には日差しを遮るカーテンの設置。冷暖房の完備、洗面所、クローゼット、電動式ギャジベッドの設置。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関、調剤薬局からの薬の説明書をファイルし、職員全員が、飲み方や副作用の確認ができるようにしている。薬の変更がある場合は、都度申し送りを行っている。	薬は職員休憩室で保管し、職員全員が分かるよう管理している。飲み忘れが無い様、投薬チェック表を活用している。薬の変更時はその都度、申し送りし、職員全員が情報共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や心身機能の状態によって役割を担い、自立支援に向け、生きがいと自信につながるように対応しています。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのスーパーなどへ買い物へ出かけたりしている。敬老会の行事で、利用者全員、カラオケボックスに出かけています。又、家族の協力で、自宅の行事での外出などもまれにある。それと、玄関より外へ出て、施設の周囲の散歩なども良い気分転換になっている。	日常的に近所を散歩する方や、買い物に行きたいと言われたときは、買い物を兼ねて一階のデイサービスと一緒にドライブに出かけたりする。家族の協力を得ながら自宅での行事へ参加するなどしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に家族管理。物品購入など必要時には家族へ依頼しています。現在、お金を持たないことに不安がある利用者はいません。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	まれに家族への電話したいとの希望があり、付き添いながら対応しています。年賀状を家族あてに送ることはありますが、手紙のやり取りをされる該当者はいません。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は落ち着いた雰囲気、リビングは利用者や職員がゆったりと過ごせる空間になっている。季節感が感じられるような装飾や作品等が飾られ、面会者にも好評である。	広々とした空間に落ち好きのある家具が配置され、飾り物や季節に合わせた作品が展示されている。大きなソファで利用者と職員、利用者同士で会話をしたり、三線の得意な利用者が演奏をすると、他の利用者も歌ったり、踊ったりして楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テレビ、ビデオ、カラオケが楽しめ、利用者と職員が一緒にくつろげるスペースになっている。又畳間も設けており、利用者同士や職員、談笑しながら洗濯物量も行っている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れたものを持ち込む利用者は一部いまして、音楽をよく聞いてたとの事で、カセットテープやCDの持ち込みがあり、食事時間に流しています。ベッドやタンス、洗面台が設置されていて、利用者、家族は満足されている様子。又壁などには、各居室担当者が、本人に確認しながら写真や飾りつけを行っている。	居室は洗面台、ベット、クローゼットが作り付けで備えられている。大きな窓からは緑が見え、壁には運営推進委員会の委嘱状、家族の写真や、自分で作った作品を飾り、職員との会話のきっかけにしている。洗面台周りに「注意」のメモを見やすく忘れられないように貼るなど工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの水の流し忘れ、水の出っぱなし、トイレットペーパーの使い過ぎ、感染症についての注意喚起等を、利用者によりわかりやすく表示、利用者の動線を把握し、都度、危険性がないか環境整備を行っている。		